

# 障害福祉サービス事業所における 障害のある被疑者・被告人の受入に関する研究

島根大学人間科学部福祉社会コース 京 俊輔

司法と福祉が連携した、触法行為をした障害者や高齢者に対する支援が全国的に展開され始めている。一つが被疑者・被告人を対象とする「入口支援」、もう一つが刑務所出所者を対象とする「出口支援」である。「入口支援」は、刑事司法手続上にいる被疑者・被告人である障害者や高齢者を対象としたソーシャルワークであり、対象者の多くが拘置所などで勾留された状態に置かれている。「出口支援」は刑務所を出所する準備段階にいる障害者や高齢者が対象としたソーシャルワークであり、刑務所の社会福祉士や都道府県地域生活定着支援センターなどが中心となって出所後の帰住先および福祉サービスの調整などに取り組む。

本研究はこの「入口支援」に焦点を当てたものである。「入口支援」は「出口支援」とは異なり、国によって事業化されていない。「入口支援」は、社会福祉法人南高愛隣会が提唱した新長崎モデル（田島ら 2013）や大阪府などで取り込まれる弁護士と社会福祉士の連携モデルなど、各自自治体で独自の取り組みが展開されている。実践が展開するなかで、「入口支援」の課題の一つとなってきたのが、障害のある被疑者・被告人の受入れを躊躇または拒否されることである（McBrein2003、木村ら 2013）。その背景には、障害福祉サービス事業所の職員が受入れることに対して不安を感じている点があると考えられるが、それらの不安を実証的に明らかにした研究は筆者が渉猟する限りほとんどなく、そのほとんどが事例を紹介するに留まっている。

本研究は、障害のある被疑者・被告人を受入れた障害福祉サービス事業所の職員が、受入の際に感じた不安と不安軽減要因について構造的に明らかにすることを目的とした。調査協力者は、入口支援を通じて障害のある被疑者・被告人を受入れた4県の事業所の施設長、サービス管理責任者、相談支援専門員などである。調査人数は14人（男性12人、女性2人）である。調査方法は、インタビュー法を採用した。インタビューは2016年10月～2018年3月までに計11回実施した。分析方法は定性的（質的）コーディングである（佐藤 2006）。

分析の結果、職員が感じた不安は「自身の経験不足および能力に対する不安」、「障害のある被疑者・被告人の社会関係に対する不安」として、また不安軽減要因は「情報収集や評価による相手の理解」および「身元保証の確認および連携とバックアップ体制の確立」として明らかにされた（以下、「」はコアカテゴリー名、【】はカテゴリー名）。

「自身の経験不足および能力に対する不安」は、職員が、支援の経験不足や支援に関する能力に不安を感じることである。職員は、他事業所や機関との【連携とバックアップの欠如】と障害のある被疑者・被告人に関する【情報不足】に不安を感じることに加え、支援に対する【経験不足】や【未熟な支援】への不安が加わることで、【責任の押し付け】を感じるようになると思われた。「障害のある被疑者・被告人の社会関係に対する不安」は、職員が、障害のある被疑者・被告人の交友関係の維持に不安を感じることである。職員は、かれらの【交友関係からの離脱】や【触法・罪状という言葉の響き】から、サービス利用後の他者への【迷惑行為や触法行為の繰り返し】に不安を感じることになると思われた。「自身の経験不足および能力に対する不安」は「情報収集や評価による相手の理解」を通じて軽減していく。具体的には、職員は、面会等を通じた【相手の理解】、研修会等での【情報収集と共有】、【支援と評価の実施】が相互に影響することで不安を軽減していくことが示唆された。「障害のある被疑者・被告人の社会関係に対する不安」は、「身元保証の確認および連携とバックアップ体制の確立」を通じて軽減していく。具体的には、職員は、かれらの【身元保証の確認】と、他事業所や機関との【連携とバックアップ体制の確立】を通じて不安を軽減していくと考えられた。

本研究により、これまで明らかになってこなかった、障害のある被疑者・被告人を受入れた事業所の職員が、受入の際に感じた不安と不安軽減要因の構造を定性的データにより実証的に提示することができた。

## 【参考文献】

- 木村隆夫・佐脇幸恵（2013）「高齢・障害犯罪者の社会復帰支援策の現状と課題」『日本福祉大学社会福祉論集』128, 83-113.
- McBrien,J.,Hodgetts,A. and Gregory,J. (2003) Offending and risky behavior in community services for people with intellectual disabilities in one local authority,The Journal of Forensic Psychiatry and Psychology, 14(2), 280-97.
- 佐藤郁哉（2006）『フィールドワーク 増訂版一書を持って街へ出よう』新曜社.
- 田島良昭（2013）『厚生労働科学研究（障害者対策総合研究事業）報告書 触法・被疑者となった高齢・障害者への支援の研究（平成21-23年度）』.

【キーワード：入口支援、障害福祉サービス事業所、職員、不安軽減、定性的（質的）研究法】